

豊岡なら世界の 憧れのまちになれる

劇作家・演出家

平田オリザさん(55)——ORIZA HIRATA

平田さんと豊岡との出会いは、講演で訪れた2010年。15年に芸術監督に就任した城崎国際アートセンター(K I A C)は、世界の一流アーティストが注目する施設になっています。「K I A Cは今や国際的なブランド。文人・墨客への城崎の伝統に根差した物語と温泉とのセットが他にはない強み」と分析します。

さらに豊岡の潜在能力を「劇団移転や専門職大学、国際演劇祭が成功すれば、豊岡は世界から憧れられ、児童らが日常的に芸術文化に触れられるまちになる」と力強く語ります。



世界的に活躍する劇作家・演出家。劇団「青年団」主宰。大阪大学特任教授、豊岡市芸術文化参与、城崎国際アートセンター芸術監督、但馬地域専門職大学設立準備委員会委員長などに就任。2017年、江原駅周辺への移住を発表し、日本の演劇界に衝撃が走る。

●劇団「青年団」の移転

来年3月に予定している私の移住に伴い、劇団の拠点も江原駅周辺に移します。今後、豊岡市商工会館を稽古場兼小劇場に、酒蔵をカフェ兼劇場に改装していきます。

100人以上の団員のうちとりあえず約20人、家族を含めると40〜50人が移住するのではないのでしょうか。その他の団員は、稽古期間だけ江原に暮らすことになりました。将来的には、劇団員が、地元の子どもたちを指導したり、高齢者中心の劇団を作れたらいいなと考えています。

●なぜ豊岡に移住

観光とアートの専門職大学

が、2021年4月、旧さとう豊岡店跡地(山王町)に開学予定です。1学年80人の4年制で、日本では初となる演劇やダンスを本格的に学べる国立公立大学です。これから文科省への申請になります。その学長に就任することが予定されています。

また私自身、小さい子どもがいますが、東京より豊岡で子育てをしたいと考えました。

豊岡の市立小・中学校は演劇を使ったコミュニケーション教育や英語教育など、教育改革が進んでいるし、文化芸術の施策も充実している。

このようなまちで育った子どもは東京標準ではなくて、世界標準でものを考えられるようになり、多様な生き方を認められ、自分の意思で進路を決められるようになるでしょう。

●国際演劇祭

来年9月から市内で毎年、開催を予定しています。最初は小さく、徐々に規模を拡大させたいと思っています。

期間中は空き店舗や倉庫など街中のさまざまな空間が劇

場になります。5年後にはアジア最大、10年後には世界クラスの演劇祭にしたい。

演劇祭には世界中のアーティストやメディアが集まります。成功の鍵は、ネットワークとコネクションです。K I A Cで蓄積されたネットワークを活用する。

豊岡でなら成功できる確信があります。豊岡のブランド以外での誘客にもつながりたい。

●豊岡での暮らし

東京は消費の場ですが、創造の場ではない。豊岡にじっくり腰を落ち着けて、作家としての活動も充実させたい。

専門職大学と国際演劇祭とはセットになっていて、この二つを成功させることは、演劇人として最もやりがいのある仕事です。

10年後の豊岡は、国籍や性別、障害の有無にかかわらず、誰もが当たり前のよう文化芸術を楽しみ、生き生きと暮らせるまちになっているのではないのでしょうか。

今は早く移住したいし、ワクワクしています。

演劇

庭劇団ペニノ『笑顔の砦』豊岡公演

11月24日(土)、25日(日)
午後2時～

所 城崎国際アートセンター
詳しくは28ページに掲載



©田中亜紀

音楽

滝川第二高校吹奏楽部演奏会

12月15日(土)午後1時30分～

所 市民会館

歴史ある吹奏楽本来の楽しさや、マーチング演奏を楽しめます。



ダンス

大駱駝艦・田村一行舞踏公演

2019年2月3日(日)午後3時～

所 豊岡市民プラザ

舞踏家・田村一行が公募市民と豊岡の伝承を題材にした舞踏を創作・公演します。33ページに出演者募集記事を掲載



第45回企画展 「錦秋をまとうー歌舞伎衣裳にみる秋ー」

12月27日(木)まで

所 市立歴史博物館「但馬国府・国分寺館」

企画展「イノチかけてつかんだコトバ」

植村直己語録×黒田征太郎イラスト原画展

2019年3月末まで 所 植村直己冒険館

第27回出石高校卒業制作展

2019年1月26日(土)～2月19日(火)

所 市立美術館「伊藤清永記念館」

第77回企画展 「大草原の草花～モンゴル・ステップを中心に～」

2019年1月27日(日)～5月28日(火)

所 日本・モンゴル民族博物館

※公演のチケット代・入館料等が必要。博物館・美術館は年末年始・水曜日は休館

美術・展示



市民会館自主事業担当・島

迫力のステージをどうぞ!!

ひとまず行ってみよう!

高校生のアート作品は必見!!



市立美術館学芸員・野村

文化芸術によるまちづくりへの挑戦

この夏休み、高校1年生の女性が1日だけの演劇入門ワークショップに参加していました。「何か一つ、普段しないことに挑戦してみたら」と、父親に促されたのがきっかけでした。終了後、感想を聞くと「面白かった」と微笑んでました。数日後、彼女の姿は同じ会場で開催された5日間の演劇集中ワークショップにありました。1日目が終わわり、彼女は父親にメールを送っていました。「めっちゃ楽しかった!」

文化芸術と聞くと、敷居が高く感じるかもしれませんが知ればその面白さに気付くことがあります。文化芸術によるまちづくりで「小さな世界都市・Local & Global City」を実現する。今、豊岡は文化政策の大きな転換の時を迎えています。

まずは、豊岡のまちに出掛けてこのまちの文化芸術に出会ってみませんか。

私たちなら、きっとできる。文化芸術の力で豊岡を面白いまちに。

【写真】中・高生演劇集中ワークショップと発表公演・豊岡市民プラザ